

# 子供のうちに プレゼン磨け

少子化が加速し、塾業界の多様化が進む中、将来役立つ「プレゼンテーション能力」を子供のころから育成するユニークな塾が相次いで登場している。対話重視のアクティブ・ラーニングを取り入れ、読書の個別指導で感想を引き出したりと、子供が自由に意見を述べられる環境や機会を提供している。

(篠原那美、写真も)

東京都港区の「子ども未来キャリア塾」。児童3人が電子黒板に映し出された1枚の写真を眺めていた。髪や肌の色が異なる複数の陸上選手が



アクティブ・ラーニング 教員が一方的に教えるのではなく、児童生徒が議論や発表などを通じて積極的に授業に参加する学習手法。子供が課題探究など能動的に学習し考える力を身につけることを目指す。平成32年度から順次実施される次期学習指導要領で全教科に導入される。学習指導要領 児童生徒に教えなくてはな

らない最低限の学習内容や、教育目標などを示した教育課程の基準で、約10年ごとに改定される。教科書作成や、内容周知のため、告示から全面実施まで3〜4年程度の移行期間を設ける。現行の学習指導要領は、小学校が平成23年度、中学校が24年度、高校が25年度から全面実施された。次期学習指導要領は32年度から順次実施される。



パソコンで作ったオリジナルマークを見せ合い、互いに意見を述べる児童。東京都港区の子ども未来キャリア塾

言できるのは楽しい」。読書感想を講師がマンツーマンで聞き出し、表現力を伸ばそうとする塾もある。東京都文京区にある「RISU塾」はタブレット端末による算数指導と、読書の個別指導に力を入れている。科学者や医師など実社会で活躍している人々が子供時代に影響を受けた本など約130冊を課題図書に選定。

「最大の特徴は、講師と生徒が印象に残った場面などについて話し合うことだ。「この場面、先生はドキドキしたけれど、どう思った？」と対話を促す。同塾を運営する「RISU Japan」取締役の加藤エルテス聡志さんは「人に説明することを意識した読書は深い理解につながる。対話が表現力やプレゼンテーションスキルの基礎にな

ってくれば」という。指導要領を先取り子供の発言力を伸ばす試みは、学校教育でも取り入れられている。現行の学習指導要領には「言語活動の充実」が盛り込まれており、国語を中心に討論などの機会も増えた。平成32年度から実施される次期学習指導要領では、さらにアクティブ・ラーニングが導入され、子供同士の話し合いの機会が増える。

に考え、発言することに慣れていけば、就活でも社会人になっても人前で話すことが怖くなくなる」と、同塾を運営するイー・ラーニング研究所の多田恭平さんは説明する。小学5年生の女子児童(11)

は「学校では、はっきり意見を言うのと相手が傷ついてしまうかもしれないと思って黙ってしまっけど、ここではみんなが意見を言える。自由に発

きたというニーズが背景にあるのではないかと分析。同時に、「アクティブ・ラーニングは知識を活用し理解を深めるための学習法。子供の学習には知識の習得と活用

## ユニーク塾 大人気

駆け出す瞬間の写真は、昭和39年の東京五輪でポスターに採用されたもの。だが、マークなどを隠しているため、五輪のポスターとは分からない。「これは何のポスターで、どんなメッセージが込められているんだろう?」。講師の岩崎格大(たかひろ)さんが質問すると「オリンピック」「世界陸上」という声に続き、ある児童がこう答えた。「『人種差別をしない』だと思う。いろんな人種の選手が平等に走っているから」。岩崎さんは目を細めて「なるほど、そうだね」とうなずいた。

■「自由に発言、楽しい」同塾のカリキュラムには

「プレゼンテーション能力」「創造力」「批判的思考」などのビジネススキルが並び、授業では対話、協働作業

「プレゼンテーション能力」「創造力」「批判的思考」などのビジネススキルが並び、授業では対話、協働作業

「小学生のころから論理的な意見を言える。自由に発

た読書は深い理解につながる。対話が表現力やプレゼンテーションスキルの基礎にな

深めるための学習法。子供の学習には知識の習得と活用

## 対話型授業で活発議論、発言力伸ばす

学習には知識の習得と活用。子供の学習には知識の習得と活用。子供の学習には知識の習得と活用。子供の学習には知識の習得と活用。